



## 適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本 剤 の 使用回数	使用 方法	銅を含む 農薬の総 使用回数	有 機 銅 を 含む農薬の 総使用回数	
み か ん	かいよう病	500～800倍	200～700ℓ/10a	収穫30日前まで	5回以内	散布	—	5回以内	
かんきつ (みかんを除く)				3回以内	6回以内(塗 布は3回以 内、散布は3 回以内)				
おうとう	せん孔病	500倍						収穫終了後～ 落葉期まで	
きゅうり	斑点細菌病	500～700倍	100～300ℓ/10a	収穫前日まで	5回以内				
レタス	軟腐病			収穫21日前まで					
はくさい				収穫30日前まで					
ばれいしょ				収穫14日前まで	3回以内				
たまねぎ				収穫21日前まで					
だいこん									3回以内





## ⚠ 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。
- 石灰硫黄合剤との混用はさける。
- きゅうりの斑点細菌病、たまねぎ、はくさい、レタス、ばれいしょ及びだいこんの軟腐病に使用する場合、発病後の散布では効果が劣るので発病前～発病初期から予防的に散布する。
- きゅうり、はくさい、レタス及びだいこんに使用する場合、幼苗期や高温時の散布では薬害を生じやすいのでその時期の使用をさける。また、連続散布すると葉が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用はさける。
- きゅうりに使用する場合、収穫間際の散布では果実に汚れを生じることがあるので注意する。
- かんきつに使用する場合、軽度の薬害（スターメラノーズ）を生じることがあるが、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 炭酸カルシウム剤の所定量の添加は薬害軽減に有効であるが、かんきつ等果実の収穫間際は果実に汚れを生じるので留意する。
- おうとうに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、薬害軽減のため炭酸カルシウム剤の所定量を添加する。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにする。

## ⚠ 安全使用上の注意



- 誤飲、誤食などのないよう注意する。
- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して薬剤が眼に入らないよう注意する。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。

治 療 法…該当なし

魚毒性等…水産動植物（魚類）に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池周辺での使用はさける。

水産動植物（甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきる。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さない。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。

保 管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、冷涼・乾燥した所。

